

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

主任教授・男性

**思う

- ・ ICTの発達による off the job training は女性の育児後の職場復帰などにも役立つと思われる
- ・ ICT 機器、ソフトの利便性が格段に向上し、業務を遂行しやすくなり、時間管理しやすくなるのではないかな。
- ・ オンライン会議は効率化に寄与している
- ・ きっと良くなる
- ・ それが目的だから。そうでなければ意味がない。
- ・ データ処理の負担が減ると思われるため
- ・ パートナーの仕事量が減れば、進むだろう。
- ・ ハイブリッドによる学会参加ができ、専門医を取得しやすくなる。
- ・ より性別を意識しなくなるから。
- ・ ワークライフバランス改善と男女共同参画は同じ意識に基づくため
- ・ 意識が変われば多少は。
- ・ 移動時間がなくなり、院内にいる時間は増えたこと、必要に応じ、在宅勤務ができること
- ・ 移動時間が減って、時間調整がしやすくなる
- ・ 医師も在宅医療が可能な分野が増えるのでは？ 休日夜間の放射線科医師の自宅からの読影は役立っている。
- ・ 育児や介護期間中でも家から学会や会議等に参加可能になる
- ・ 家事と仕事の両立が可能
- ・ 家庭から仕事ができるから。
- ・ 家庭に滞在する時間が増えた。
- ・ 会議への参加は時間に影響されにくくなったと思います
- ・ 会議や連絡などは効率化した。現場の診療自体はオンラインでは代用できない
- ・ 学会や会議に参加する障壁が低くなるため。
- ・ 活用により可能性は感じられる。
- ・ 業務効率化に期待しての回答です。
- ・ 勤務時間がフレキシブルになるため
- ・ 在宅での業務が可能となるから。
- ・ 在宅勤務が可能となれば
- ・ 仕事の効率化により、家庭にいる時間が増える。
- ・ 使い方次第で進むと思われる。
- ・ 子育てをされている方で自宅からなら対応できるという女性も多いと思うので、多少は進むと考えます。
- ・ 子育て中の医師が学術活動に参加しやすくなった
- ・ 時間が効率的に使える
- ・ 時間の有効活用により家事などの役割分担が可能となるため
- ・ 時間節約ができることになった利点は大きく、日々の業務も効率的にできる利点も大きいと感じている。女性の方はなおさらそう感じておられるかと考える。時間の利用の効率化は女性の進出を後押しすることになると思う。
- ・ 自身の仕事の裁量が少し増える、自由度が増すのではないかな
- ・ 自宅からの会議参加ができる。
- ・ 自宅からの学会参加が容易になる。
- ・ 自宅からもできる仕事が増える
- ・ 自宅から仕事できるのは女性には大きい
- ・ 自宅でも従事できる場合がある。
- ・ 社会と連動している
- ・ 集合する必要が減り参加しやすくなる
- ・ 出張しないとできない仕事が減った。
- ・ 女性が家庭から参加することができる。
- ・ 女性が会議に参加しやすくなる(在宅からの参加も含めて)
- ・ 女性が在宅での業務も可能になった
- ・ 女性のブルシット・ジョブへの参画は進むと思うから。
- ・ 女性は在宅で仕事をするようになるだろう
- ・ 少なくとも女性の参画機会は増えると思う

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・省力化や時間節約が進むので。
- ・職場にいなくても仕事ができる。
- ・全国すべての病院のシステムの統一化されればの限定条件
- ・多様な働き方が可能となり、新たなスキルを持っている人が参画してくれる可能性がある
- ・対面と遠隔を上手く使い分けることによって無駄な時間を省き管理業務に女性の参画を促すことができる。
- ・男性の家事分担が増えるから。
- ・平等に学べる

**思わない

- ・ICTだからと言って、男女共同参画とは別の物だとおもうから。
- ・ICTと男女共同参画がどう連動するのかよくわからない。
- ・ICT化が、女性の勤務を支援するとは思えない
- ・ICT化が進めば男女共同参画が進む科学的根拠を問う。
- ・ICT化と男女共同参画は関係ないと思う
- ・ICT化と男女共同参画は基本的には別の問題だと思う。
- ・ICT化による労働時間削減効果は薄いため、結果として、労働時間は変わらないと思うから。
- ・ICT化の推進と男女共同参画の関係が分からない
- ・output がはっきりしない
- ・あまり影響はないのでは。
- ・ジェンダー平等の意識改革が必要
- ・そのような目的として行っていないと思われるため。
- ・なぜICT化が男女共同参画につながるのか、そもそもそこがわからない。
- ・リモートワークは医療にはそぐわない
- ・意識の問題なので
- ・育児に対する基本的な考えが進歩していない現状。
- ・何かと男女共同参画を結びつけるのは違う気がする。
- ・何故進むのかわからない
- ・家庭と仕事を両立させている女性医師は現状でも可能な限りで勤務してくれており、それ以上に勤務へ時間を割り振る余裕はないと思われるため
- ・最も重要な業務は、対面でないとできない。
- ・充実感が損なわれる
- ・女性の参画推進には、別の取り組みが必要と考える。
- ・女性はもともと時短が多く、家に帰ると仕事への対応はしにくくなるため。
- ・情報技術の進歩と性差とは根本的に別の概念で、なんでも一緒に論ずるのは意味がない
- ・診療科格差が改善がなされなければ、絵にかいた餅になってしまう。
- ・まずは社会の認識が変わらないと進まない。
- ・大学病院の人員を増やさないと、改善しない
- ・男女の共同参画とほとんど関係がないと思う
- ・男女の申告が不要な書類が増えており、男女共同参画という性別による階層別に考える概念自体が問題になる可能性があります。
- ・男女共同参画とは直接関係ないと思うから。
- ・男女共同参画とワークライフバランスを同時に論じる事は出来ないと思う。男女共同参画は男性優位社会の見直しから始める必要があり、個々の価値観を尊重する所から始まると思う。
- ・男女共同参画と関係ない
- ・男女共同参画には根本的な社会制度の変革が必要と考えるから。
- ・男女共同参画の推進力はICT化ではない。
- ・男性が女性の参画を受け入れる意識、女性の参加する意思(意欲)の変化が必要と思うから
- ・直接的な影響は乏しいから
- ・本質的に個々の意識の問題だから。
- ・無関係と判断します。
- ・目的が違うと思う

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・両者は合理的な関係がないため

**わからない

- ・ICTとは全く関係がない
- ・ICTと男女共同参画を結びつけることに無理がある。
- ・ICTの活用が現実的ではない。
- ・ICTをどう使うかという、意識の問題が大きいと思う。
- ・ICT化が問題の根源とは思えないので。
- ・ICT化と家事分担に直接の関係を見出しにくい。
- ・ICT化の内容によりけり
- ・これこそ、わかりません。机上の議論ですので、真の意味での男女共同参画につながるか不明。
- ・そういう機会に遭遇していない
- ・どのようなICT化かを具体的に示してもらわないとよくわからない
- ・意識への効果が不明
- ・何もいえない
- ・科によっては進む場合あり
- ・期待はしているが、正直わからない。
- ・業務を担ってくれば改善するかもしれないが、存在意義がなくなる
- ・現時点ではわからない
- ・個の女性の就労意識による(depending on)。
- ・個人の意識の変容が必要。
- ・今後の展開によると思われる。
- ・使い方次第
- ・自身には影響がないため。
- ・自分の職場ではあまり影響ないから。
- ・実効性が不明
- ・若い世代の意識改革によると思う
- ・女性の参画は増加するかもしれないが、男性の参画が減少する可能性がある。
- ・正直、わからない。
- ・男女間の調整は、他にも多くの要因があるので
- ・男女共同参画においては、家庭内での家事や子育て業務の分担が優先課題と思われる。
- ・男女共同参画は意識の問題。
- ・不確定要因が多い
- ・別問題だと思います。
- ・未知数
- ・要因が多いから
- ・両者の関係が不明
- ・良い点、悪い点 両方ある
- ・良くなった点と悪くなった点の両方があり、一概には判定困難だと思います。

主任教授・女性

**思う

- ・作業効率が上がる
- ・時間的余裕が生まれ、男性医師の家事参加が増えるため。 1
- ・時間的余裕は男女ともに有益
- ・出張可能な者だけが全国や世界に出ていく機会を得るわけではなくなるから。
- ・男性の家事、育児参加が進む。

**思わない

- ・あまり関係ないと思う
- ・家庭内、職場での意識改革が進むことが必要

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

**わからない

- ・ ICT化の推進が男女共同参画に直接関与するか不明
- ・ ICT化の内容による
- ・ 意識の要素が大きい為
- ・ 何ともいえない
- ・ 相手に意識によると思うため。
- ・ 男性の意識改革と女性の経済的自立を推進するのが先決

教授(主任以外)・男性

**思う

- ・ ICTに男女差は生じない
- ・ もっと推進されれば進むと思う。
- ・ より女性が社会に進出しやすくなると考えます。
- ・ 育児しながらでも参加しやすい。
- ・ 育児中の女性も参加しやすくなった面もある(こういう発想自体が男女共同意識が低いのか)
- ・ 遠隔や短時間での業務がしやすい
- ・ 家事、育児などある程度両立できる可能性がある
- ・ 家庭にいても実施できるのは利点と考えます。
- ・ 業務が効率的になり、ワークライフバランスが改善されることが期待されるから。
- ・ 業務の効率化が進めば男性も休暇を取りやすくなる
- ・ 勤務時間の短縮につながり、働きながら家事育児に関わることができるため。
- ・ 兼務が減少し専業化すると短時間勤務でも雇用が増えるから
- ・ 在宅ワークの可能性の拡大
- ・ 在宅勤務の在り方による女性の労働環境の変化に期待したい。
- ・ 在宅勤務の増加
- ・ 仕事時間の短縮につながる。
- ・ 時間が有効につかえる(移動時間の短縮)
- ・ 自宅から参加できることで、育児しながらでも対応可能と考える
- ・ 自由に使う時間を捻出しやすくなるため。
- ・ 手間の省力化、迅速化が期待できることから自由に時間の確保に繋がるので。
- ・ 女性が在宅で参画しやすい
- ・ 女性も意見が言いやすくなるように思います。
- ・ 男性の家事参加
- ・ 非常勤の女医達が会議などに参加できるようになるから。
- ・ 必要な部分の仕事の分担が進むから
- ・ 無駄な時間の削減、業務の集約ができる

**思わない

- ・ ICTと男女共同参画は別の問題
- ・ ICT化と関連付けが理解できない
- ・ ICT化と男女共同参画の議論が同リンクするのかわからない(異なる2つの現象を無理やり同じカテゴリーに入れて議論すること自体が理解できません)
- ・ ICT化と男女共同参画は直接リンクしないと思う。
- ・ イメージわからない
- ・ そこにどういった関係性があるのかわからない。
- ・ そこは関係ないのではないのでしょうか
- ・ 意識改革を進める必要がある。
- ・ 関連因子が多すぎる
- ・ 結局は本人の気持ちだとおもいます。
- ・ 現場時間が減っても、拘束時間は増える。

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・ 効率はよくなるが、限定的
- ・ 時間ができるため
- ・ 女性側に問題であり、無理強いはいできない。パワハラにつながる。
- ・ 診療科ごとに男女共同参画の濃淡がある。
- ・ 性別よりも個人の状況による。ICT が進んでも個人の状況で対応が難しい場合は変わらない。
- ・ 男女共同参画と ICT 化は関係なさそうです。
- ・ 男女共同参画とは別問題ではないでしょうか。
- ・ 通常業務に加え手間がかかる
- ・ 当人の考え方による部分も大きいので
- ・ 別次元の問題
- ・ 変わらないと思います。
- ・ 労働時間の削減と男女共同参画は別次元の問題だと思うから。

**わからない

- ・ 「まあ、この程度でも良い」と思う人が居れば少しは進むかも知れない。
- ・ ICT の影響は限定的であり、それのみで議論すべきではない
- ・ ICT を信じていない。
- ・ ICT 化しても、やるべきことは山のようにある
- ・ ICT 化と男女参画とは関連していないため
- ・ ICT 化の影響がどのようにあるのかわからない。
- ・ そもそも別物
- ・ それらは別の問題。
- ・ そんなに上手く ICT 化が進むとは思えないです
- ・ どちらともいえない。良い面と悪い面がある。
- ・ リーダー次第でしょう
- ・ 医師という職業については、現場での仕事が多いので、ICT 化が男女共同参画に寄与するのかわかりません。
- ・ 医療は患者さんのいる現場が一番大事だと思います。院内の ICT はまだ進んでいないので不明。
- ・ 可能性はあるかと思うが分からない。
- ・ 課題は他にもありそう。
- ・ 結婚して子育て中の女医さんが ICT にどの様に関わる科によると思うが、見通せない。
- ・ 個人の状況によって異なる。
- ・ 効果が不明
- ・ 国や各施設のやる気次第と思う。
- ・ 今後を見守る
- ・ 子育て世代には負担減で良い。
- ・ 時間の制約の変化が男女共同参画への本質的な解決策とは思にくい。
- ・ 実際にやってみないとわからない
- ・ 女性医師も自宅からでも会議や学会に参加することができるようになるだろうが、参加する方の意識付けが変わるかどうかによるため
- ・ 先のことはわかりません。
- ・ 想像が付きません
- ・ 男女共同参画に ICT 化の何が寄与するかわからない。しいて言えば、女性が家で育児しながらビデオ会議にでやすくなるかもしれない。
- ・ 男女共同参画は別の問題だと思います
- ・ 無関係の事項

教授(主任以外)・女性

**思う

- ・ 遠隔でも会議に参加できる機会が増えるので、子育て中の場合も参加できる。
- ・ 在宅でもできる仕事(教育準備、会議、研究の一部)が増えることにより、家庭に関わる時間の調整はしやすくなると思う。
- ・ 男性が家事に参加できる

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・ 男性の協力が得られやすい

**思わない

- ・ 結びつかない
- ・ 根本的な男性の意識改革なしに、男女共同参画は変わらない。きっかけになれば、ラッキー。
- ・ 職場環境やシステムを改善しないとツールだけがあっても男女共同参画は進まない

**わからない

- ・ ICT化と男女共同参画は次元の異なる話だと思う。
- ・ ICT化が直接男女共同参画を促進する理由が思いつかない
- ・ 意識の問題である
- ・ 医師の在宅勤務を認めれば進むが、それがなければ変わらないと思う。
- ・ 関連性が見えていないため
- ・ 男女共同参画も進んでほしいが、要職についている人の考え次第。それより男女両性とか女性は何名とか決めたほうが有用。
- ・ 通常的时间帯であれば、女性が参加しやすくなる。会議によっては 21 時から 22 時からとか、家事をする身には辛い時間帯のものがある。

准教授・男性

**思う

- ・ ICTの有効な利用方法を見いだす必要があるが
- ・ ICTの利用は男女を区別しないから。
- ・ ICT化により育児などによって業務から隔絶されることが減る
- ・ いろんな立場の人が情報にたどりつきやすくなる
- ・ オンラインでは性差を意識する局面が対面よりも減少している。
- ・ オンライン会議のため参加の場所に制限が少なくなり、男女とも参加しやすくなると思われる。
- ・ オンライン会議や Web セミナーなどを駆使することで、育児に関わる女性も積極的に学ぶ機会が増えるように感じます。
- ・ ミーティングへの自宅での参加や、雑務の負担軽減につながる可能性があるため、育児世代の業務の進め方に関する選択肢（男女ともに）が増えるのではないかと。
- ・ リテラシーの高い女性医師は、積極的に参画していただけるのではないのでしょうか？また、それを期待したいです。
- ・ ワークライフバランス改善により女性参画も推進されると思う為
- ・ 移動などの時間が削減できるため。
- ・ 移動時間において圧倒的な優位性がある
- ・ 家でもできることが増える。
- ・ 家事をしながら参加可能
- ・ 家庭があるとなかなか現地参加で学会やセミナーに参加できないため
- ・ 家庭からも会議や研究会・学会に参加可能となる
- ・ 家庭生活と両立しやすくなるから
- ・ 学会には参加しやすいと思います。
- ・ 簡素化が進むから
- ・ 効率化による時短が期待できる
- ・ 効率的になるため
- ・ 拘束時間が短くなれば就業しやすくなる人が増えるため
- ・ 在宅であれば勤務可能な女性がいる
- ・ 在宅勤務ができれば家事育児に割ける時間を増やせる。
- ・ 在宅勤務が可能となる
- ・ 参画の自由度が増すから(ただし世代間格差は進むだろう)
- ・ 子育てなど家事を抱える女性医師が時間を捻出することが可能になるため。
- ・ 子育てをしながら業務が可能のため。
- ・ 子育て中の女性医師も学会に参加しやすくなった。
- ・ 子供のいる女性が参加しやすい。
- ・ 自宅からも会議に参加できるため在宅ワークにより組織内での役割を果たすことができるようになり産休・育休・家事等での在宅

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

ワークがし易くなっている。

- ・ 自宅からも会議等に参加できるため
- ・ 自宅で育児をしながら、会議や抄読会に参加可能になった。
- ・ 自宅にいながら参加できる講習会や会議がある。
- ・ 自由な時間が増える
- ・ 実際に導入できれば
- ・ 書類作成や確認など、大学に出てこなくても自宅でもできるような業務が増えてくればより進のではないのでしょうか。
- ・ 女性が学会などに参加しやすくなった
- ・ 女性が参画しやすくなるのは確か。
- ・ 女性のライフイベントを考慮した働き方につながると思う。
- ・ 女性も参画しやすくなる。
- ・ 人によっては在宅での業務が可能になると思うから
- ・ 相対的に女性の働きやすい環境になる可能性が高い。
- ・ 万人に時間的余裕を提供する事ができる。移動時間が減り、家庭にいる時間を得やすくなる事で、様々なイベントに関与する機会は増え、また家事、育児などをシェアする事もしやすくなるだろう。
- ・ 融通性が高くなる
- ・ 利便性が向上するため
- ・ 例えば、様々な企画立案、意見の吸い上げなども どんどん行われやすく、女性が得意な分野のすそ野も広がると思っている。

**思わない

- ・ ICTではない。意識が重要である。
- ・ ICTと男女の仕事参加に相関関係はないから
- ・ ICTと男女共同参画が関連するとは思えません
- ・ ICT化で逆に複雑な仕事は増えると考えるから
- ・ ICT化とは直接は結びつかず、社会全体の意識改革の影響の方が大きいから
- ・ ICT化と男女共同参画は関係ない
- ・ ICT化の推進が直接的に男女共同参画を進ませる手段となるか疑問点も多いため。
- ・ ICT化の推進と性別との関係が分からない
- ・ ICT化の推進のみで、自分の業務量が減少するとは感じられない。
- ・ ICT化程度で進む問題と思えない。
- ・ この国の対策は常に絵に描いた餅
- ・ そのような機能をもつ仕組みづくりができていません
- ・ それぞれが独立した話なので関連付けられない。
- ・ それとこれとは話が別。やるひとはやるし、やらないひとはやらない。
- ・それほど大きなインパクトはない。
- ・ そんなに簡単なものではないと思う
- ・ テクノロジーが追い付いていないように思います。
- ・ どう結びつくのかが分からない
- ・ ヒト対ヒト診療行為の実質的な部分は何も変わらないから
- ・ まずは仕事に対する意欲を上げることが重要
- ・ ワークライフバランスの改善が男女共同参画の進化に影響するとは思いますが、ICTを導入がワークライフバランスの改善にはまったくくつながらないと感じている。
- ・ 意識が変わらないと男女共同参画には進まない
- ・ 意識の問題で、ICT化は関係ないと思う。
- ・ 医師は、患者を診るのが仕事。ICT化有無にかかわらず変わらない。
- ・ 育休中・時短中に知識の補充が可能になるとは思うが、実際の臨床働はやはり実業務への従事が必要だと思うので
- ・ 影響する項目が無い
- ・ 各種ハラスメント。意識改革。
- ・ 関係があるとは思えない
- ・ 勤務している職場では、性別によってICT化の影響に差があるとは思えないため
- ・ 具体案が見えない

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・ 現業で女性がいないのでわからない。
- ・ 雇用者や上層部の意識をどうするかが問題。
- ・ 今のレベルの ICT 化では進まない
- ・ 根本的理由ではない
- ・ 在宅で勤務可能な職種では、在宅時間が増加するため、男女共同参画は進むと考える。
- ・ 参加するかどうかは個人により男女ではないと思う
- ・ 仕事量は変わらず拘束される時間は変わらない
- ・ 女性も十分頑張っているの
- ・ 男女で、仕事が違うから
- ・ 男女の違いを冷静に分析して互いに理解・納得したうえで男女共同参画を進めるべきだがそのプロセスが無いことが多く、場合によっては男性差別のようなシーンも見受けられるが、これらは ICT で解決できるものではないため
- ・ 男女の問題は関係ないと思う
- ・ 男女共同参画といっている時点で時代遅れです。
- ・ 男女共同参画とは何の関係もない事象では？
- ・ 男女共同参画の問題は職場よりも家庭にあると思います。配偶者や扶養家族に影響を受ける。
- ・ 男女共同参画は、ICT 化だけでは進まないと思うから。
- ・ 男性の意識変化がないと男女共同参画は進まない。
- ・ 長時間働くことが出来ない人や、短時間働くスタイルの人が参加し易くなるメリットは確かにあると思う。しかし、トータルの仕事量が減ったり、労働者の数がとても多くなならない限り、誰かにしわ寄せが行くと思う。また、トータルの賃金が増えない限り、全員が満足できる給与は得られないと思う。また、恩恵を受ける人と、むしろきつくなる人の分断が進む。
- ・ 別の論点であるから
- ・ 保育園の不足、大学病院の給与是正など社会基盤が盤石でないと進まないと思います。大学病院勤務医のみにあてはまることですが。
- ・ 労働時間は減らないから。
- ・ 乖離している

**わからない

- ・ ICT 化とは何か具体的に見えない
- ・ ICT 化と関係を感じにくい
- ・ ICT 化の推進が、具体的に何を指すのか不明である。
- ・ いろいろな要因があるため
- ・ どう関係するんですか？
- ・ やってみたいとわからない
- ・ ユーザーフレンドリーなシステムが出来れば時短や効率化は可能と思われるが、男女共同参画に相当する様な実例が身近に存在せず、よく分からない
- ・ 何に対してメリットか分からない
- ・ 関係がないと思う
- ・ 元々実力次第で性別とは関係ないため
- ・ 仕事の量は減らないので
- ・ 質問の意図がわかりません
- ・ 女性が仕事場に囚われず従事できるようになれば共同参画は進むでしょうが、仕事内容の男女による差別化が起こることが危惧される。
- ・ 将来的には進むかもしれないが実感はまだできない。
- ・ 少なくとも現在は、改善が乏しい。
- ・ 上が変わらないと、変わらない。
- ・ 職場の男女共同参画の取組が分からないから
- ・ 推進がうまくできていない
- ・ 全体の業務内容が減らないため
- ・ 男女の問題は別かも知れない。
- ・ 男女差はないと思う
- ・ 直接 ICT が関与するかどうかはわかりません

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・直接的には関係ないと思う。
- ・導入される現場の考え方や体制が重要と考えられる。
- ・両者に関連性を見いだせない

准教授・女性

**思う

- ・移動に要する時間が減るとプライベートの時間が増えるから。
- ・育児をしながら家で学会に参加できる。
- ・遠隔から会議に参加が可能であるので。
- ・家事を担うものが仕事の無駄時間を減らすことができる
- ・家庭があると出張できない女性もいるため。
- ・家庭と仕事の両立を実現しやすくなると思うから。
- ・現時点は思いつかないが、やりにくさを感じているところを ICT で改善できるはず。ただ初期は単純に行いすぎて思い及ばない点がありそう。
- ・在宅勤務できることで、キャリアを継続できる
- ・自宅からでも業務が行えるため
- ・自宅での勤務など可能になるから
- ・女性も会議に出やすい
- ・場所を限定せずに業務が可能になること。
- ・地方に住んでいると学会参加の移動時間が大きく家族が犠牲になっていた。オンラインで資格が維持できるのはありがたい

**思わない

- ・ハード面がいくら改善されても、それを使う人達の固定観念、環境、文化背景が変化しないと、変わらないと思う。
- ・意識改革には時間がかかるため。
- ・医療の場では基本的に他の医療者の替わりはできないから
- ・関連性がない
- ・根本的な意識改革が必要です。
- ・女性が家でできる仕事を与えられるだけ

**わからない

- ・ICT化と男女共同参画は別次元のものだと思うから
- ・ICT活用で、距離的な問題は解決できるが、個人の時間を増やせる訳ではないから
- ・メリットとデメリットがあるから。
- ・活用方法による
- ・共同参画の達成目標にもよる。ICT化できない家事労働の分担(特に育児)もあるので。
- ・具体的なイメージが未だもてない。
- ・子供がいない女性は男性と変わらず仕事をしている。むしろ他の男性以上に仕事をしていることが多い。何をもちて男女共同参画なのか疑問。子供のいない女性や一部の仕事に熱心な女性ばかり、学会では男女共同参画の企画に入れられるが、本来の目的はそこではないと思う。
- ・時間だけの問題ではないから
- ・自身が単身のため

准教授・回答しない

**わからない

- ・「ICT化の推進」と言うのが抽象すぎて。
- ・個々人の意識付けが大事だと思うから

講師・男性

**思う

- ・オンラインツールによって、例えば自宅に居ても仕事に参画する機会が持てるため。
- ・オンライン会議への遠隔参加で無駄な会議に拘束される機会が少し減ったから。

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・オンライン診療などが充実すれば、働き方の多様性が得られ、産後女性医師の復職につながるため
- ・オンライン診療等が一般化すれば良い
- ・これまで女性により中心的に行われてきた家事、育児、介護などの部分を男性が行えるような意識や体制の変革が進めば、女性が仕事や経済力の面でも活躍し、男性も変わっていける社会になると思うから。
- ・さまざまな働き方が可能となる可能性
- ・ただし、個々の活用の仕方により異なると考える。
- ・ネットがあると女性や多忙な人も参加しやすいから
- ・リモートワークでの時短労働が可能になるから。
- ・移動時間が省略され、自分の時間は増えるため
- ・育児しながらでも参加できる
- ・育児しながら業務が出来る
- ・育児で参加できなかった学会にオンラインで参加できる
- ・家事に使える時間が増えるから
- ・家庭から web 経由での仕事が可能な職種に関しては勤務形態に幅が出るため。医療現場では進まない。
- ・家庭でも参加できるため。
- ・会議に、育児中の女性医師が参加しやすくなった。
- ・学会やセミナーの参加が可能となるため今まで育児などにより参加できなかったものに男女問わず参加できる可能性が増加するため
- ・業務の効率化が進む
- ・業務時間と負担が減ればそれだけ家事を手伝えるため、
- ・業務時間短縮
- ・効率化が進むため。
- ・効率化する部分はあると思う
- ・在宅勤務の幅が広がるから。
- ・雑務が減るため
- ・参加がしやすい。
- ・産休中でも、仕事ができるようになる
- ・仕事面はわからないが、少なくとも専門医の更新などのために遠方まで子供を残してまで学会参加はしなくて済むから。
- ・子育てをしている者が会議に参加しやすくなる
- ・子育てをしながら、学会に参加しやすい。
- ・子育て中でも時間と場所を問わずに働くことができるようになる。
- ・時間の節約につながると思います。女性は日本では家事・子育てを中心的に行うことが社会的に求められがちです。子供が体調不良の時には家に帰ることも多いように思います。そうすると管理職にはなかなか採用されません。職場外であっても、的確な情報を、短時間で送り、判断を仰ぐことができるのであれば状況は変化するかもしれません。
- ・時間を効率的に使うことができる
- ・時間短縮につながるから。講義を聞くだけなら家で家事をしながら聞くこともできる。
- ・自宅からの会議参加等が可能になるから。
- ・自宅で仕事をすることが可能になります
- ・自宅や他の場所からでも参加可能なため。
- ・自由時間が増えることで女性と男性の家事の分担がしやすくなるため。
- ・女性もオンラインで自宅から参加できるようになった
- ・情報および知識の獲得がしやすくなり、無駄な時間も排除され、移動制限がなくなる、など改善されているため。
- ・情報の共有はスムーズになる
- ・積極的に外来、会議に登用すべき。
- ・多少は今まで関与できなかった業務に参加できる機会が得られると思う。
- ・単に長時間を費やす仕事が減るため
- ・男も長時間労働できなくなるから
- ・在宅勤務が出来るのは大きい。
- ・避けられない方法であり有効に作用してもらわないと困る
- ・分業化が進むため
- ・無駄な作業が減るため

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・ 幼児などを抱える女性医師の学会活動や診療カンファレンスなどへの参加が促進されると思う。

**思わない

- ・ ICT というツールの導入と社会の役割分担についての考え方との間には関連性は考えにくい
- ・ ICT の問題は小さいと思います
- ・ ICT 化と男女共同参画とは少し違う話で、多小自宅から仕事ができたり、仕事の効率を挙げたりできるかもしれないが、ICT 化されたものに慣れる必要が増え時間制限のある仕事をしている女性には負担となり、男女参画は余計に難しいだろう。雇用者側が様々な業種で女性でも働きやすい柔軟な勤務形態を募集すること、様々な技能をつける機会を設けることが大事ではないかと思う。
- ・ ICT 化と男女共同参画はどのように繋がるのでしょうか？
- ・ ICT 化と男女共同参画は別問題であると考えている
- ・ ICT 化と男女共同参画は無関係だと感じる。ICT 化の恩恵を受けるのに男女差はない。
- ・ あまり関係はない。
- ・ オンサイトが原則である限りは不便さは解消されない。そもそも、男女共同参画が ICT でどうして推進されるのかわからない。
- ・ オンラインと男女共同参画は関係ない
- ・ オンライン診療が普及していないから。
- ・ これまで通りの仕事量は変わらないから。
- ・ そこが変わる理由がわからない
- ・ そこまでの ICT 推進までは至っていないため。
- ・ それは全く別問題
- ・ まず相関があるか調査されたし
- ・ 医師の働き方改革の悪影響が大きいから。
- ・ 家にいる時間が確保できる
- ・ 逆に進むと考える理由を教えてください
- ・ 業務の効率化は進むと思うが男女共同参画まで進むかは不明。
- ・ 業務量が減るわけではないため
- ・ 決定的理由にはなりえないから
- ・ 現在の社会制度では不十分であると考えているため
- ・ 根本的な問題の解決では、ないため。
- ・ 雑用は増える一方だから。
- ・ 仕事の内容、量、人員が変わらないから
- ・ 仕事をする時間、方法はあまり変わらないから
- ・ 子供の面倒をみながらオンライン会議には参加できないから。
- ・ 次元の違う話に感じるため
- ・ 実感できないから
- ・ 実際に進んでいる印象がないから。
- ・ 女性が勤務しにくい事に ICT だけでは対応できないから。
- ・ 女性の参画とは無関係と思う。
- ・ 女性及びその配偶者が協力して、積極的に働きたいと思えば、女性が活躍するチャンスは増えたと思う。
- ・ 進む理由がみあたらない
- ・ 先ほどから何度も述べている通り、男女共同参画と言いつつ、実態は女性優遇であり、見方を変えると男性を苦しめていることになるから。
- ・ 男女の考え方、家庭環境、家族の在り方が絡んでくるので、情報通信技術の変革はその一面を担うにすぎない。
- ・ 男女共同の定義が不明
- ・ 男女共同参画を妨げているのは無期雇用者に低賃金で過重労働をさせていることや、労働市場が閉鎖的で新卒の勤務先から離れるとそれ以上の賃金が得られる場がほぼないという日本の労働環境の構造自体にあるため、ICT 化程度では変えられないと思うためです。
- ・ 中途半端な ICT 化はかえって業務を増やす印象がある。
- ・ 直接は関係しないと思う。
- ・ 直接的なメリットが思いつかない。
- ・ 当業界の形態上変化ないと思われる。

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・実際に夜間や休日に病院に来られる人が増えないと改善はしないと思います。
- ・特に影響する因子ではない。
- ・特に変わらないと思います。
- ・内科を敬遠する医師の増加
- ・負担が特定の人に集中するシステムは変わらないから
- ・無駄な仕事は増える一方。
- ・良い面と悪い面が相殺

**わからない

- ・ ICT 化で、なぜ男女共同参画の話が出るのかわからない。
- ・ ICT 化と男女共同参画の関係性がよく分かりません。
- ・ ICT 化と男女共同参画は別次元の問題であると考えます
- ・ ICT 化によりどのような好影響をもたらすのか予測できない。
- ・ ICT 化の推進での効率化がイメージできない。
- ・ ICT 化を実感していないため、わかりません
- ・ あまり影響がないと思う
- ・ ここでいう ICT 化が具体的にどういう状態、利用をさせているのかよくわかりません。そのため以下回答しづらかったので無回答なしとわからないとしました。
- ・ その様なシンプルな問題ではないと思う。1 時間ゆとりが増えれば、1 時間働く様なものではないと考える。
- ・ それとこれとは別。
- ・ どこまでの ICT 化を勤務先が施行してくれるかが一切不明
- ・ どの程度寄与するのは未知数と思ひから。
- ・ どんな影響があるか具体的に見えないから
- ・ やって見ないと分からない。
- ・ 恩恵を受けるのは男女とも同等と思われる。
- ・ 帰宅してからのオンライン参加等で活用できると思う。
- ・ 共同参画にどこまで寄与するのか分からない。
- ・ 業務が効率化されることが女性の参加に繋がるわけではない気がするため。
- ・ 業務効率を上げるために ICT 化は重要とおもうが、男女共同参画に対しどの程度の効果があるかは個人としては判断困難。
- ・ 具体的な事例がわからないため
- ・ 効率化・短縮された仕事を男女共同参画に用いるかは各個人の考え方が大きいと思われる。
- ・ 自宅でできることが増加することにより、上手に活用できれば男女共同参画が進む可能性はあるが、現状では改善が見られない。
- ・ 質問の意味がよく解らない
- ・ 実際にどれほど変わるのかが予測できない
- ・ 実務、特に夜間業務には ICT はあまり寄与しないと思うので。
- ・ 女性が研究や管理業務をしやすくなると思います。でも、オンライン業務の足元で子どもや親の世話をしなければならない。むしろ預けられる場所の確保の方が大事。
- ・ 女性が働きやすくなりそうだが、あくまでも ICT を利用してでの勤務であり、それが本当の意味での共同参画なのか分からないため。
- ・ 女性側の意志次第。子育て支援がないとなかなか厳しいのでは。
- ・ 条件が極めて限定される可能性がありわからない。
- ・ 人手不足が解消するかわからない
- ・ 制度設計による
- ・ 性別が ICT にどのように関係するのかわからない。意欲があれば性別は関係ないように感じる。何でも性別に関係づけるのは難しいと思う。
- ・ 正直、ICT 化での男女共同参画への影響はわかりません。
- ・ 正直イメージがわからない
- ・ 想像がまだできていない
- ・ 男女で ICT の影響に差が生じるのかわからない。
- ・ 男女共同参画とは何なのか分からないから。

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・直接結びつく理由が思いつきません。
- ・適切なシステムを使用しないと効率化が達成されないばかりか煩雑な手続きが増えるだけになったりする。
- ・特に変わる事は無いと思う。
- ・分野・内容によると思います。
- ・別の議論のように思います。わかりません。
- ・別問題だと思う

講師・女性

**思う

- ・ICT化で男女共同参画が直接進むとは思わないが、ICT化により無駄な仕事が減って、医師の仕事に専念できるようになると、時間も有効に使い、男女共同参画も進むかも
- ・ICT化の推進により業務時間が短縮できれば、かつ男性にその気があれば、その時間を家事・育児に使うだろう。
- ・オンラインで得られる人脈や経験値がICTで得られることで、一般的に女性が逸しているチャンスを得られる可能性が広がったと思う。
- ・より積極的に女性も様々な機会に参加できるようになっているが、登壇者やリーダーといった人が出てくるかは、まだ先の課題で、また別の問題と思う。
- ・移動時間をその他の時間に使えるため
- ・医局の診療カンファレンスや所属学会への参加など、自宅で育児をする合間に参加できるようになった。
- ・育児、介護、家事等で遠方への学会や会議への参加が特に女性で難しい場面があると思うが、ICTはこれを考慮せずに済むから。
- ・育児や介護の休職が多いため。
- ・家を空けることなく参加できる
- ・家庭のある女性も参加しやすくなるため
- ・会議がウェブ開催になることで会議に参加し意見を言うことなどが可能となるため
- ・会議や学会、専門医単位の取得しやすくなるため
- ・会議や学会に参加できる時短勤務の医師が増えるため
- ・学会の専門医更新の単位取得や最新の知見を学ぶことについて、時間・場所の自由度が増し、多様な医師に平等な機会が提供されるようになった。
- ・客観的にみられるから
- ・教育や研究は遠隔でも可能なので、診療以外の部分は、可能な限り遠隔で行えば、自宅からでも可能。男性も女性も家庭にしながら仕事が可能になるため、家庭と仕事のバランスの調整がしやすくなる可能性はある。
- ・現場への参加が容易になる面で女性も参加しやすい
- ・現地参加のみのときよりも様々な業務に就くのが容易になった
- ・在宅から参加できたり時間が節約できることで働きやすくなる可能性があると思います
- ・参加する時間を作りやすくなる
- ・仕事が効率的になれば、男女問わず働きやすい職場環境になるのではないかと
- ・時間外であっても、在宅で参加できるので、子育て中でもどうにかできることが増えるから。オンデマンドであれば、融通が利くので、学会やセミナーも比較的参加しやすいから。
- ・自宅からも研修・会議に参加できる
- ・女性が以前より参加しやすくなると思われるため。
- ・場所と時間の自由が広がるため。
- ・性差の原因は、家事育児を女性がメインとするものという固定観念だと思うので、ICT化で意識変容の啓蒙がより容易になる可能性がある。さらに、ICT化で仕事効率化やアクセスしやすさがすすめば、仕事に偏りがちな男性は減り、家事育児にかたよりがちな女性も仕事や研究に取り組む機会が増えるので性差が埋まることが期待される。
- ・性別を超えての意識改革につながると思うから。
- ・他の問題も大きいから。
- ・日々の業務が削減されれば、自然と進むのではないかと考えるから
- ・平等に機会を得られる可能性が増える。
- ・幼児がいても学会参加しやすい

**思わない

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・ ICT 化と男女共同参画との間の直接的な関係はないと思う。
- ・ ICT 化と男女共同参画の問題点は異なるように思う
- ・ ICT 化と男女共同参画は直接は関係しないと思う。自宅から電子カルテにアクセスできたり、オンライン診療が推進されると変わるのではないかな。
- ・ リモート会議や講演などで、移動時間が削減されたことをメリットに感じています。移動時間に男女差があるとは思わないため、これまでに存在した男女格差は平行移動し変化しないでしょう。
- ・ 意識改革がなければ進まない
- ・ 家事は変わらないから
- ・ 改善が見込める理由を知らない
- ・ 共同参画と関係があるとは思えないから
- ・ 共同参画の問題は 時間ではない
- ・ 具体例がわからない
- ・ 個人の意識の問題だから
- ・ 子育てや家事は ICT 化できない。結局、家庭での役割分担や時間配分の問題が大きい。
- ・ 子供が体調不良の際、女性が休むのが当たり前という風潮がある
- ・ 男女差別はなくなるらない
- ・ 日本では根本的にジェンダーギャップが埋まらないという気がするから。医学部・病院においても重要なポストについている人のほとんどが男性。オンライン会議でも発言しているのは男性医師・研究者ばかり。
2022 年における Global Gender Gap Report では、日本は 146 か国中 116 位だった。
- ・ 変わらないと思う。

**わからない

- ・ ICT 化と男女共同参画の関連がわからない
- ・ お互いに異なるタスクが多いため
- ・ どこに ICT を用いるかにより変わるのでは
- ・ リモートで会議などができるようになれば育児中の人にも仕事を分担してもらえるのか？自宅に仕事を持ち込ませるのはどうか？
- ・ 医療分野でも ICT 化により自宅勤務が可能となれば進むと思うが、現実では難しいと思う。
- ・ 各々の考えや状況が異なる
- ・ 業務を効率化する事で確保できた時間を有効活用できるのではと期待する一方で、せっかく確保した時間に新たな雑務が入りそうとも危惧しているから。
- ・ 在宅勤務が増えれば多少は進むかと思います。
- ・ 職場での男女差を感じている状況では、判断がむずかしいと思います。

講師・回答しない

**思う

- ・ 自宅からの参加ができるようになったため

**思わない

- ・ 在宅勤務ができる業種ではないので、男女共同参画とは関連が無いように思う。
- ・ 問題の軸がそもそも違う

助教・男性

**思う

- ・ 「教育」「研究」「診療」の総和の負荷が軽減することで改善すると思う。
- ・ 医師も自宅でオンライン診療などができるようになれば進むと思う。
- ・ ICT と男女は全く関係ない。性別に関係なく働く人にとっと ICT は有益、さぼりたい人にはじゃまでしょう。
- ・ ICT 化により管理職の女性比率を上げることができるであろう。
- ・ ICT 化による作業時間の短縮や効率アップが、勤務時間の短縮や自宅勤務を可能にすることで女性も子育てをしながら働く事ができる
- ・ いくらかは参加しやすくなると思われる

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・オンライン参加可能な業務は女性も参加しやすい。
- ・オンライン診療であれば自宅でも可能であるから
- ・こどもを預けなくても参加できるものが一つでも増えるとメリットは大きい。
- ・そうしないと医者が集まらないと思う
- ・それぞれの勤務形態に応じた柔軟な働き方が可能になると考えるため。
- ・テレワークが本当意味で可能になれば進むのでは
- ・どこからでも研究会や学会に参加できるようになれば、資格取得などに関してはより平等になるだろう。
- ・やり方次第では
- ・ワークシェアしやすい
- ・ワークライフバランスが改善すれば、育児・家事の負担が夫婦のどちらかに偏ることが減り、共に仕事への時間がとりやすくなるため。
- ・わざわざ行く時間を節約できるようになれば、どこからでも参加できるため
- ・移動時間が激減するため
- ・移動時間などの短縮
- ・移動時間の削減、作業を並列できる
- ・育児や出産といったライフイベントがあった際も、ICT 化が進んでいれば多少でも診療業務に携わることができそうなので
- ・遠方移動がなくなれば参加しやすい
- ・家からでも参加できる
- ・家にいながら仕事ができるため、家事の分担や女性の仕事が行いやすい
- ・家事をしながら会議ができる
- ・家族の事情で女性上級医が帰宅しなければならない場合でも Zoom などで研修医が相談できれば、男女共同参画は進む
- ・家庭にいながら会議に参加可能なことは、家庭での役割が多い人物(男女問わず)にメリット。アーカイブを視聴することで、自由な時間に情報にアクセスできる。
- ・会議、研究相談など、場所を選ばずに実施できるため。
- ・改善することを期待するのみです。
- ・革新的な方法が期待できる。
- ・希望
- ・業務が減るため
- ・業務が効率化する可能性があるから。
- ・業務の効率化できれば時間短縮になると期待できる、ひいては男女の業務負担は改善されうる
- ・業務時間の削減により、女性にも働きやすい環境になると思います。
- ・具体的にはわからないが、寄与してくれそう
- ・現場で働きすぎという人じゃない人も参加できるから。
- ・現場に行かなくてもよい仕事については、遠隔で指示が可能となり、女性の社会進出がよりすすみそう。
- ・効率があがれば参画できる機会は増える
- ・効率よくできれば、それを指導してくださる専門家がいたら
- ・効率を優先的に考える時代になってくる
- ・効率化による
- ・拘束時間が短縮されるため。
- ・今後必要性が高まる。
- ・在宅からの業務対応が実現することで共同参画の機会は増えるため。
- ・在宅でできることが増えるため
- ・在宅での学会参加など
- ・在宅でも会議などに参加できるため。
- ・在宅ワークの幅が広がることも期待する
- ・在宅勤務の可能性が広がるから。
- ・雑務の量が減れば、よりフレキシブルに働けるようにはなると思う。
- ・参加が容易になるため
- ・参加はしやすくなったが時間設定等が抜本的に改善されていない
- ・子育ての合間にも仕事ができるため
- ・子育て女性も参加しやすい

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・ 子供の世話のため学会参加が難しかった女医さんの参加機会が増えると思います。
- ・ 子持ち女性医師の学会参加は容易になったため。
- ・ 時間の効率化
- ・ 時間を有効に利用することで、様々部分に参画しやすくなると思う
- ・ 時間外に参加しやすい。
- ・ 時間拘束を効率化することは女性の社会参加に寄与すると考えられるから。
- ・ 時短勤務が推進できる。
- ・ 時短勤務であっても、夕方の会議にオンラインで出席できる。空き時間に Web セミナーや e-learning を受講できる。オンライン参加できれば学会参加が用意になる。
- ・ 自宅(育児)からでも参加できる
- ・ 自宅からでも学会や会議に出席ができるから。
- ・ 自宅からの教育や講演、業務が可能になるため。
- ・ 自宅での研究会などへの参加が可能になった
- ・ 自宅での参画が可能だから。
- ・ 自宅での仕事が増えることで、家事が両立できる
- ・ 自宅でも勤務可能な体制が進んでいく。
- ・ 自宅で育児をしながら業務ができる方法が可能となれば進むと思います。
- ・ 自宅参加可能。非常勤でも参加可能。
- ・ 自宅時間が増えることで家事に参加できる
- ・ 自分に関しては変わらないかもしれないが他業種では改善するかも
- ・ 自由な時間が増えるため。
- ・ 女性の生活スタイルでも会議や学会に参加しやすくなったと思います。
- ・ 女性も家にいながら仕事ができる点が増えると思う。
- ・ 女性医師間の情報共有や男女の連携が行いやすくなると考えられる
- ・ 上記にも書いたが、オンライン診療やカンファレンスがさらに手短になることで病院外にいても医療に参画することが可能となると思う。
- ・ 場所を問わず参加することができるため、休職中であつたとしても参加することができるから。
- ・ 場所を問わない。育児しながらの参加ができる。
- ・ 情報がより公平に存在する状況となるため
- ・ 職種にもよるが、在宅勤務が可能な場合、家事の分担などは進むと思う。
- ・ 色々便利
- ・ 人数がどの程度かはわからないが、制度をうまく利用できる方の分だけ参画が進む方向に傾くと思う。
- ・ 相互に活かせば良い。
- ・ 多少はある。
- ・ 短時間勤務の女性には良いと思う。しかし、一方で、男性がカバーしなければいけない業務(体力勝負)のことは、男性に偏る傾向になると思う。また、大学病院など役所管轄の病院は、ワークライフバランスと言いながら、全体の雇用人数の総数を上げてないため、結果的に、一部の人間(特に中間管理職)に過度な負担が来ている。20年後に今の20代の医師がこの雑務だらけの給料に見合わない仕事をやっているとは到底思えない。
- ・ 男性優先の業務計画が改善されると思われるため
- ・ 長時間労働がなくなるため。
- ・ 働き方改革が進むため。
- ・ 読影業務が院外から可能であるなら、専業主婦として退職された先生でも自宅から短時間ずつ仕事に参加いただけるかもしれない
- ・ 無意味な時間の短縮
- ・ 無駄が削がれ効率的になれば、時間の余裕が生まれその遊びが、男女間のギャップを吸収する。具体的には時間外労働の必要がなければ男でなければならぬ業務とはならない。
- ・ 例えば家で子育てしながら出来る業務も増える。
- ・ 労働時間の短縮

**思わない

- ・ ICTにより、理屈的には子育て中の女性職員がリモートワークはできるかもしれない。しかし、完全なジョブ型とは程遠いのが職

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- 場の現状であって、だれのものともいえないようなタスク、調整に手間のかかるタスクは結局オンサイトに出勤する職員がアサインされるため、不公平感が出る。
- ・ ICT に適さない業務が大半を占める。
 - ・ ICT 化が寄与するとは考えにくい。
 - ・ ICT 化が進んでいない。
 - ・ ICT 化で女性が自宅から業務を行うのは女性の労働過多を生むだけ。男性の業務量を減らして男性が自宅で子育てを負担できる環境整備や日本の土壌を改善する方が優先されると考える。
 - ・ ICT 化で得られる知識はあっても現場で生きる技術は得られず、逆に共同参画は進まない。
 - ・ ICT 化とは無関係
 - ・ ICT 化と男女共同参画に関連性を感じない。
 - ・ ICT 化と男女共同参画は別問題であると思う。
 - ・ ICT 化の影響は男女問わずにあると思うため
 - ・ ICT 化は、データ管理と距離の短縮なので、対面が必要な事案には向かないし、心の整理が必要な案件には向かないため。
 - ・ オンラインでの会議が結局、診療時間外で行われている現状であり、それを時間内に移行しない限りは変わらないと思います。
 - ・ すでに男女共同参画が進んだ職場だと感じている
 - ・ そもそも ICT 化と男女共同参画に何の関係があるのか分からない。
 - ・ そもそも内科医がいない。働きたいと思う、働いていない女医がいない。
 - ・ デバイス使用に時間がかかる
 - ・ どういう形で進むのか想像できません。
 - ・ どれくらいの寄与度があるかわからないため
 - ・ ライブイベントに合わせた休暇がとれないから
 - ・ 意図が分からない
 - ・ 医師の仕事はほとんどがオンサイトであるため。
 - ・ 基本的には各自の心がけ次第
 - ・ 希望する診療科を選べる状況では、偏在化は防げないから
 - ・ 期待はしているが、現在変化がないため
 - ・ 業務内容が変わるわけではないから
 - ・ 繋がりがわかりません。
 - ・ 結局女性医師は家庭・育児で十分な時間確保できず、男性が補う構図に変化があるとは思えない
 - ・ 原因は家事や育児ではなく、権威主義の側面が大きいから。能力で認められる構造にないから。
 - ・ 個人の能力に依存し、性別に関係ないから。
 - ・ 根本的な考え方が無理。育休より産休優先。遠方は男性。雪が降る地域は男性。そのような考え方を変えないと無理。
 - ・ 根本的な考え方として、育児を男女で行う、という意識が成熟していない。
 - ・ 根本的な問題が解決されないから。
 - ・ 根本的に問題はそこではないと思う
 - ・ 仕事の効率化と男女の格差は別問題
 - ・ 子育てが ICT 化の推進でできるようになるとは考えにくい。子供が泣いている横で、在宅ワークとかできるとか、思えない。
 - ・ 自宅から子供の声が入った状況でミーティングに参加することに対する理解がない
 - ・ 実際は難しいと思う。
 - ・ 社会は変化しないから
 - ・ 社会環境の充実が大切
 - ・ 出産・育児支援のさらなる充実が必要
 - ・ 女性のやる気と上司、その診療科の考え次第
 - ・ 女性の保育環境やサポート体制が未整備で、男性と同じように働くことは難しいため。
 - ・ 進む理由を教えてください。
 - ・ 進んでほしいが、参画したいと思う人が増えないと意味がない
 - ・ 総じて負担は減っていない
 - ・ 待機、当直などには関係ないため
 - ・ 怠けたい女性のなんちゃって参画が進むだけ。真面目な意識高い女性と男性が割を食う。そのため、実質的には質の低下をもたらすだけ。
 - ・ 台湾や北欧並みに導入できれば改善できるが、現在の病院の予算では無理。

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・ 男女は関係ないと思う
- ・ 男女共同参画が進まない原因は、ICT 云々ではない。よって ICT が進もうが進むまいが関係ないと思う。
- ・ 男女共同参画と情報伝達の効率化は直結しないことが想定されるため。
- ・ 男女共同参画には ICT 化以外の要素が強いと思う
- ・ 男女共同参画を改善しようものではない。時短勤務の女医に持ち帰り自宅 ICT 業務をさせられるのなら別だが働き方改革がありそれは不可能。
- ・ 特に外科系では難しいと感じる
- ・ 無理矢理平等にする動きが頭悪いと思うので
- ・ 要素として無関係
- ・ 両者の関連がわからない。
- ・ 労働に見合う収入が見込めないため。

**わからない

- ・ ICT で女性も参加しやすくなるが、土日に学会を開催され、それに子育てしながら参加するのは難しい
- ・ ICT 化とは？具体的に何をさしているのでしょうか。
- ・ ICT 化と男女共同参画がどう結びつくか、私には分かっていないため。
- ・ ICT 化のメリットと男女共同参画の関連性が思いつかない。
- ・ ICT 化の意味が分かりません
- ・ ICT 化の推進と男女共同参画は直接関係がないと思われる。
- ・ ICT 化は男女いずれも社会へのアクセスが容易になる一方で、男性の育児参加がしやすい環境づくりや必要なら法整備など、ICT 化以外の場面での介入が必要なため。
- ・ ICT 化推進と男女共同参画の結び付きにイメージがわからない。
- ・ ICT 化推進の実感がない。
- ・ これまでに進んだ ICT 化の結果、参画が進んだとはあまり感じていない。今後に期待。
- ・ そこまで影響するかわからない。
- ・ それ以外の問題点の要因の方が大きいのではないか。
- ・ ちょっと予想が付きません。
- ・ どう関わるかわからない
- ・ どのように活用されていくのか想像ができないため
- ・ どの部分が効率化につながるかがよくわからない
- ・ やって見ないとわからない。
- ・ 移動時間が節約されるが、全体の仕事量に比べるとわずかなため
- ・ 育児にかかる時間は変わらないため
- ・ 改善する側面と悪化する側面があるため、単純には回答できませんでした。
- ・ 興味がない
- ・ 業務が多く、男女共同参画が増えるイメージがわからない。
- ・ 具体的に ICT 化で何をするのが分からないので答えられません
- ・ 具体的に何がどうなるかが分からないので、如何様にも感じようがない
- ・ 結局、医療における生死の部分は偏って負担することになり、それを好んでやる人は多くはないので、質が落ちていくと思う。それに対する対価がかわらないのであれば、やる気も落ちてきて、さらに質は落ちると思う。
- ・ 結局人それぞれ。
- ・ 現時点ではうまくいっていない
- ・ 現実味がないため分かりません。
- ・ 現状で、ICT 化により、明確に時短などがすすんだ実感がない
- ・ 個人の意識の問題
- ・ 参画しようとする当人の意識によるところが大と考えられる為
- ・ 仕事の量は変わらないため、今まで以上に過酷になっている
- ・ 子育てをしながら会議などに参加できるかわからないため
- ・ 子育てをしながら講演会やカンファレンスに参加できるかもしれないが、男女共同参画と直接かかわるかはわからない。
- ・ 自主性に期待した研鑽でどこまで学べるか、経験的には懐疑的なところもあり、臨床の場では、研修のなかにはある程度、強制的な働きかけがないと伸びしろが小さくなるのではないかという懸念もある。現在、ワーク・ライフ。バランスにおけるバランス

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

の支点は曖昧に個人に任せられているように思うが、もう少し具体的、明確に提言する必要があるのではないかと考える。現状はフリーズ先行の骨抜き改革な感が否めない。

- ・ 自宅から学会に参加することも可能になるが、それは男女ともに変わらない。
- ・ 実感がない
- ・ 重要な会議への自宅からの参加が可能かどうかなど運用次第なので、わからない
- ・ 女性の考えはわからない
- ・ 女性側の仕事への参画を阻害している要因が私には分からないため
- ・ 女性優遇は進むと思います。
- ・ 小さい子供がいる等の差は改善しない
- ・ 職場に女性が少ないため。
- ・ 診療時間の短縮に寄与すれば可能性はある。
- ・ 人によると思います
- ・ 人口が減るから、効率化しても進むかわからないから。
- ・ 生半可な知識や技術で IT を導入しようとするのはダメ。きちんと時間とお金を配分すべき。
- ・ 想像できない。
- ・ 相当進んでいかないと変わらないと思う
- ・ 他の原因が大きいと感じるから
- ・ 男女なんちゃらに期待はしていない。全くもって無駄な考え
- ・ 男女による差は分からない
- ・ 男女の違いがあると思わない
- ・ 男女共同参画と ICT 化が直接結びつくとは思えない。
- ・ 男女共同参画というものの自体がよくわからないです。
- ・ 男女共同参画に ICT 化がどのように貢献するか具体的にイメージできない。
- ・ 男女共同参画の定義が不明であるため回答困難
- ・ 働き方改革、共同参画の問題点は、金銭と人員の問題で、ICT は直接関係ない
- ・ 必要ない会議をなくす、オンライン化するなどの空気が広がればいいかもしれませんが。
- ・ 夕方以降あるいは休日に開催される、学会や研究会に参加しやすくなるが、それが直接男女共同参画につながるかは不明。
- ・ 予測できない
- ・ 余り関係なさそうと思います
- ・ 領域、科によって異なると思う。ICT 化の推進で例えば心臓血管外科の女性比率が増加するか疑問。
- ・ 労働場所を選ばない業務についての参加が期待できると思うが、そのような業務と診療などの対面が必要な業務の仕分け/分業が進むかどうかにかかわると思う。

助教・女性

**思う

- ・ WEB のチャット機能をつかえば、可視化され、発言できる機会を与えられるから
- ・ web を利用して、自分の空いた時間に勉強できると、業務にも積極的にかかわっていかうという意気込みが沸くため。オンデマンド配信を促進してほしい。
- ・ いかにか時間外業務に時間を割けるか、の点で評価されていた部分がなくなる
- ・ オンラインでの在宅勤務や学会参加が可能であれば、子育て中の女性医師の勤務や研鑽継続が容易である
- ・ オンラインの方が学会には参加しやすくなる
- ・ オンラインを活用したキャリアアップはできると思うから
- ・ オンライン開催だと女性が参加しやすくなると考えられるから
- ・ オンライン診療などを充実させれば家を離れていても働ける。
- ・ オンライン勉強会や学会にも参加して専門医資格などを維持しやすい。
- ・ フレキシブルに対応可能
- ・ 悪影響は無いと思う
- ・ 移動のために長時間パートナーが留守にする事が無くなり、結果的に主たる保育者の負担が減り、夫婦の働き方が改善されると思うから。
- ・ 移動時間の節約ができることで通勤時間が短縮されれば、その分を別のことに当てられる
- ・ 育児しながらも参加できる学会や勉強会が増えるため。

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・ 育児などをしながら講義、会議、学会に参加できることはとても大きいです。養育や介護が必要な家族の体調不良などに、休まなければならない業務を最小限にできることも非常に大きいと思います。
- ・ 育児に関しては効率化できて負担が軽減する。
- ・ 育児や家事をする女性が働きやすくなるから。
- ・ 育児中の女性医師はこれまで参加できなかったカンファレンスや学会に参加できる機会が増えたと思う
- ・ 家で、家事の合間に出来るが増える
- ・ 家でカンファレンスに出られる。
- ・ 家事で学会参加できない医師が参加できる
- ・ 家事育児に忙しい人も時間のやりくりがしやすくなる
- ・ 会議などに参加しやすくなる。
- ・ 学会参加、単位取得がしやすくなる
- ・ 業種や仕事の内容によってはテレワークできることもあるのでは、と思う
- ・ 業務の効率化は男女を問わないから。
- ・ 効率化を図ることで、全員の業務負担が減るはずなので。
- ・ 在宅であっても新しい医療情報から取り残されないで済むため
- ・ 在宅でも会議やセミナーに出席できるため、育児中でも管理職につくことができる。
- ・ 在宅でも働くことができるようになるため
- ・ 在宅業務が可能となることで、女性も家事や育児と業務の両立がしやすくなる
- ・ 仕事の時間が短縮できれば可能
- ・ 子育てしていても参加しやすい。
- ・ 子育てしながら女性も会議含めた仕事に参加できる
- ・ 時間、場所の制限が緩和されると進むのではないかと感じるため。
- ・ 時間が有効に使えるため。
- ・ 時間を効率的に使えることで帰宅時間を早められるから
- ・ 自宅からでもオンラインで仕事できる
- ・ 自宅からの会議参加が可能であれば、育児などと並行して業務可能である。
- ・ 自宅からの会議等参加は無駄に職場に拘束される時間を減らすことができる。子育て中などの人も会議参加や知識のアップデートがしやすい。
- ・ 自宅から参加できる会議などが増えたから
- ・ 自宅での勤務ができれば
- ・ 自宅で子供みながらでも会議に参加できるから
- ・ 自宅にいながら仕事ができる医師が増えれば、子育て中でも研鑽を積むことが可能になると思う。ただし、手術技術等はある一定時間実技をしないと向上しないので難しいかと思う。
- ・ 女性を事務作業に充てる、というような考え方は是正されることが期待できる。
- ・ 症例検討会や学会などに参加しやすくなった
- ・ 進みそうな気がします。
- ・ 選択肢が増えるため。
- ・ 選択肢や参加スタイルが増えることで男女共にいろんな人が働きやすくなると思う。
- ・ 全ての作業の効率化。
- ・ 多様な働き方への対応が可能
- ・ 男女共同参画は、進むような気がします。
- ・ 男性医師の働き方が改善することで女性医師の働き方も改善しやすい
- ・ 優先順位をつけ、自分で時間が管理できる。
- ・ 例えば子供が体調不良でも自宅から参加しやすいなど

**思わない

- ・ ICT化で対応できる内容が少ない。また、当人や周囲の意識が変わらなければ変わらない。
- ・ ICTが進んでも仕事の量は変わらない。
- ・ ICT化と女性の進出は関係ないと思う。
- ・ ICT化と男女共同参画には関連を見出せない。
- ・ ICT化の推進と男女共同参画の接点が不明

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・この改革が女性の参画を後押しするものかどうかはわからない。
- ・すべて ICT 化できるわけではないから
- ・まずは、育児や介護をする女性を守る制度が少ない
- ・家にいる間も講演会や学会の視聴・参加が可能となったことで ON/OFF の境界がつけにくくなり、夜遅い講演会も増加したと感ずることから
- ・科研費などをとっている男性医師を中心にインフラ整備がなされており、外部資金をとれない女性医師はそもそもインフラ整備ができない
- ・外注できなければ、業務の総量は減らない
- ・現場の環境(診療業務量、家事・育児の分担)に変化はないから。
- ・根本的に男女の役割のようなものが社会で変わらないと変わらない。
- ・子供がいて家庭でオンライン業務は結局難しいとの声を当事者からはよく聞きますが。
- ・子供の発熱などで休んだとしても、子供の世話があるのでオンライン会議等に出席できるわけではない。育児をしながらの在宅ワークは困難。
- ・時間外の会議が増えたため対応できる人とできない人がいる
- ・次元の違う話だと思う、ICT だけあれば変わるものではない
- ・女性の政治家とか社長が増えとかのほうが進むと思う
- ・上層部の意識が変わらない限り、男女共同参画は進まないと思う。
- ・早くなった分だけどんどん仕事が増える
- ・男女共同参画というより多職種協働に視点をおくことで改善はみられると思うが、医師同士の夫婦において男女共同参画においては性別による役割意識が大きな問題である。
- ・男女共同参画の問題の本質は、ICT 化ではないと思うため。
- ・男性の育児休暇などのほうが重要な気がします。
- ・男性優位社会であることに変化は起きないだろう
- ・男尊女卑や女性が家事・育児をやるべきという考えと ICT 化は関係ないから。
- ・地域的にも家のことは女性がやるべきという風土が強く、所属の中で男性が家事育児にコミットしながら仕事をするという例が殆どないため。
- ・日本の男女共同参画が進まないのは女性が家事や育児に時間をとられるからではありません。根本的には男性を女性が支えるのが当たり前という日本の古い考え方を引きずっている医師が多く、女性を重要な仕事で登用することを避けているからだと思います。それは ICT 化を推進したところで解決されるものではない、全く別の問題です。
- ・私はずっとフルタイム勤務で、当直等も断らずに男性と同じようにやってきました。それでもずっとやりたかったカテーテル治療はやらせてもらえず、同期の男性医師がカテーテル治療施行医として腕をみがく時間を確保するため、あるいは男性医師を留学させるからとかいう理由で私はいつも誰かの代わりに病棟や外来業務などカテーテル治療以外の業務をすることを長年強いられました。このままではせっかく医師になったのに一生やりたいことができないと思い、教授に抗議したものの聞き入れられず、大学にこれはパワハラなのではないか抗議した挙句、やっと 40 台半ばにしてカテーテル治療をやりはじめたばかりです。ちなみに、大学の最終的な判断ではこれはパワハラではないそうですが、本当にそうでしょうか。教授からはその後も「早く辞める、お前は何かするな」と言われ、続けていた研究も取り上げられてしまいました。キャリアアップなど今後も当然望めませんがそれでも抗議しなければ何も変わらなかったのも、よかったかどうかはわかりませんが、こうするしかなかったと思っています。なお、教授が私にカテーテル治療をさせなかった理由は「女性はいつ辞めるかわからないからカテーテル治療のように重要な仕事をまかせて突然いなくなるとは困る」というのが若いころ言われたことですが、辞めるつもりが全くなかった私には理解できませんでした。中年になってからは「伸び盛りの若い男性医師を育てることが大事なんだからお前はサポートをしろ」だそうです。あまりに男尊女卑な考え方でこれも私には理解ができません。同じように教育を受けて医師免許を取得し、しかも若い医師よりは学位や専門医などちゃんとした資格もとっているのに、なぜこのような差別を受けなければならないのかいまだに理解ができません。キャリアアップできなかった分、給与の面でも同期の男性医師とはかなり差があるようです。
- ・業務を ICT 化してもこのような男女不平等な日本の医学部・医局の環境を変えることはできません。ICT 化と男女参画は別問題です。むしろ、医学部各医局の管理職のうちある一定の割合は女性でなければならないといった規則をつくって強制的に環境を整えることの方が有効ではないでしょうか。
- ・さらに、時短勤務などで自分の都合のいい時間だけ働いて帰ってしまう女性医師も私にとっては困った存在です。彼女たちが 10-16 時とかでしか働かないので、私が朝 8 時夕方 18 時みたいな時間外の院内仕事を通常の 9-17 時の業務をやったうえですべて請け負っていました。医療というものは現状現場での業務がなくなることはありません。ICT 化を推進することで中途半端にしか働かない女性医師が働き続ける環境を提供することになるのならむしろやめてほしいです。
- ・変化を受け入れる人がどれだけいるかわからない

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・本邦で女性の社会参加が少ない要因はシステムではなく偏見・差別であって、ICT化は関連がない。

**わからない

- ・ICT化と男女共同参画はベクトルが同じではないと思う。男女共同参画はまた別に取り組むべきだと思う。
- ・ICT化によって具体的にどんなメリットデメリットがあるのかわからないから
- ・ICT化によりワークライフバランスが成立すれば男女参画が進むと思われる。
- ・ICT化の内容によると思われる。
- ・あまり関係ないと思います。
- ・オンラインでできる業務が増えても、結局子どもの面倒をみながら仕事をするのは不可能なのでは？
- ・オンライン参加時も家事育児等の必要はあるため
- ・コミュニケーションがとりづらい
- ・すでに半数以上が女性医師なので
- ・そもそも男と女を同等に、という考え方に、無理があるように思います。
- ・まだ実感がない
- ・各家庭による。
- ・学会への聴衆としての参加はできるが、やはり学会発表や主体的な参加とまでは行かない。子育て中に遠方の学会に行くのが厳しいことには変わらないから。
- ・慣習の変化は難しいから
- ・環境が整備されても、対象者の意気込み次第
- ・具体的にイメージできない。
- ・結局のところ、時間に余裕ができる人が仕事ができるため、難しさを感じる。
- ・個人の価値観の変化も大事だと思うので
- ・根本的な考え方がかわらないと難しい。時間がかかると思う。
- ・子育てや家事のアウトソーシングの必要性が定着しないと、結局女性に負担がかかる。
- ・時間の使い方は人それぞれだから
- ・自宅等から業務に参加できる点は良いが、現場の仕事(外来・手術・病棟)についてはICTのみでは解決し得ない。
- ・男女共同参画としての変化はあまり実感できていない
- ・男女共同参画とは直接関連しないかもしれない
- ・男女共同参画に貢献しているかはわからない
- ・男女共同参画はそれぞれの意識改革が必要。また年配者ほどICTをうまく使いこなせない印象がある。
- ・男女共同参画を進めるには、各個人の仕事の効率化だけでなく、組織全体の意識改革がなければならないから。
- ・男女共同参画を推進する具体的なICT活用の例が思いつきません。
- ・不妊治療が考慮されないため
- ・夫が他業種のため
- ・父親である男性の育児介護によるスケジュール変更も一般化すると良い
- ・別問題のように思う。
- ・利用の仕方による

助教・回答しない

**わからない

- ・個人的にオンラインをほぼ使用しないため。
- ・男女共同参画というジェンダーバイナリーからどうにかして欲しい

医員・男性

**思う

- ・web使用が増えたため
- ・オンデマンドの学会発表動画であれば隙間の時間で、聴講が可能であり拘束時間短縮されるため。
- ・どうしても在院勤務できない女性医師でも、在宅で事務仕事などできると分業化がはかどる
- ・リモートでの参加ができるようになることが期待されるから
- ・移動などの参加制限が減る為。
- ・育休産休が取得しやすくなり、そのデメリットも減る

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・一つ一つの業務にかかる時間が節約できるため
- ・遠隔医療の推進
- ・家からでも参加できるため。
- ・家事などに時間を割いている女性がより業務に参加しやすくなるため。
- ・在宅でできることがかなり増えてきているから
- ・在宅可能な職種は女性が参画しやすいかも 男性の雇用は減るが
- ・参加形態に選択肢が増えるため
- ・参加出来なかった会に参加出来る人が増える。
- ・子育て中の女医もカンファに参加できる。
- ・時間に余裕ができれば家族単位でも時間に余裕が生まれると考えるから
- ・時間の確保が可能になるため
- ・自宅からできる業務が増える
- ・自宅からでも講義が受けられるようになる
- ・自宅からでも参加できる機会が増え、家事・育児を並行してこなせる機会も増えるから。
- ・自宅でも出来る仕事が増えるから
- ・自宅勤務も場合によっては可能であるかもしれないため。
- ・女性が参加しやすくなるから
- ・女性でも職場へ関わる機会に制限がなくなる
- ・オンライン化すれば人的資源が効率的に使える。
- ・診療以外の業務などで、在宅ワークなどができる(自宅から教育指導など)となると、もっと男女関係なく仕事に参加しやすいのではないのでしょうか。
- ・全体として女性の参加も増えるのでは
- ・対面とオンラインの組み合わせることで様々な社会参画への機会が増える。
- ・誰がやっても同じ業務効率となるなら、男性がやるべき、女性がやるべきと思われる業務内容が減るから。
- ・男女の垣根が消えていく
- ・男性がより家事、育児に従事しやすくなるのではないかと思うから。
- ・無駄な書面での業務がなくなるため。
- ・良いか悪いかわからないが家で仕事するようになる。

**思わない

- ・ICT と男女共同参画の関わりがよく分からない。
- ・ICT に導入により、子持ちの母親が 22 時などに会議に参加させられているのをみました。子供が泣くことに怒る人もいるので逆効果な気がします
- ・ICT 化で済ませられるのはあくまで業務のサブのみの面であり、業務の本筋自体の負担が減るわけではないため
- ・ICT 化で不正な時間外労働の申告などは減らせると思うが、それだけで時間外労働を減らせる訳ではないから。
- ・ICT 化の推進と男女共同参画にどのような相関があるのか想像がつかないから
- ・パートとしての働き方が社会的に受け入れられなければ、女医の活躍は無理
- ・医療のメインは現場であり、子育てしながらの仕事が困難な以上夫または妻がフルタイム復帰するのが難しいのは変わらない。
- ・医療従事者はやや女性が多いが、現時点で十分に男女共同参画は達成できていると考える。ICT 化は関係がないと考える。
- ・期待していないし、興味もない
- ・結局家庭での時間を増やしているわけではないから。
- ・結局個人のモチベーションが鍵だと思う
- ・個人の意識の問題が大きい
- ・出産に伴う問題が解決しなければ変わらない
- ・女性の労働環境やキャリアアップの難しさは ICT 化以前の話だと思います。
- ・世間の男性への目がいまだ厳しいため。
- ・全く別の論点。今上に立つ人間、知事レベルで変わらないと変化しない
- ・男女共同参画とはどういう意味でしょうか
- ・日常診療で対面を要求されるので
- ・本人次第という面も大きい
- ・矛盾を含む問題のため

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

**わからない

- ・ ICT 以外の調整も必要と思われるため
- ・ ICT 化推進による web 参加により専門医維持や情報の会得はしやすくなった。ただし、共同参画については、育児・介護環境のサポートがあつてのものであり、ICT 化のみで進むとは思えない。
- ・ あまり経験がないから。
- ・ どのような環境下においても、結局はその個々人の気持ちに依存していると思うから。
- ・ まだわからないです
- ・ 意識の問題なので分からない。自宅にいても育児のため、WEBの講演会や学会参加が難しい状況であることは変わらないから。
- ・ 影響がわからないため
- ・ 遠隔でできることが多い診療分野であれば、現在家でやらなければいけないことがあると言って遅く出勤したり早めに帰宅したり当直免除を受けたりしている女性医師も、ある程度自宅から業務に参画できるようになるかもしれないが、実際それが実現されるかは分からない。
- ・ 具体性が想像できない。
- ・ 結局それを使う人次第。意識しだい。
- ・ 現時点で不明。
- ・ 根本が変わらないと意味がない
- ・ 根本はそこじゃない。
- ・ 職種による
- ・ 推進化された先のビジョンが見えないため。
- ・ 男女の仕事の差別化が今あるとは思ってない
- ・ 男女間での変化はあまりないのかもしれない
- ・ 男女共同参画と ICT 化は直接関連がなさそう。
- ・ 男女差は関係ないのでこれは環境や社会の問題。
- ・ 男性側に強制性をもつような仕組みが少ないため。
- ・ 方法次第だと思う。

医員・女性

**思う

- ・ あらゆる方法で参加しやすいため、それぞれに応じた方法での参加が可能だと思われるため
- ・ できることが増えるとは思いますが。
- ・ 育児中でも、ICT 化により参加可能な会議や学会が増える。
- ・ 遠隔診療などで子育て中でも少しの時間だけ働くなど自由度が増す
- ・ 家庭でできる仕事が増えるから。
- ・ 家庭での制限のある人も自宅にいなから参加できる
- ・ 家庭にいても学会などへの参加がしやすくなる
- ・ 家庭をもつ女性にとっても会議などに参加することができる
- ・ 効率は良くなると思う。
- ・ 効率化されそうだから。
- ・ 拘束時間が短くなる
- ・ 今まで家庭の理由で参加できなかった女性も参加しやすい環境になっているため
- ・ 在宅ワークができる。
- ・ 参画しやすい環境になると思うから。
- ・ 子育て中でも会議や学会に参加しやすくなった。
- ・ 子育て中でも学会に行きやすくなったから
- ・ 子育て中でも参加できる
- ・ 子供や介護者がいると外出もままならないため
- ・ 時間・場所の融通がききやすくなることで、少しは変わるかもしれない
- ・ 時間が節約できる。家事、育児をしながら聞くこともできる
- ・ 自宅からできる仕事は少しでも多くなれば、家庭の事情などがある人でも働きやすくなると思うから。

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・自宅から参加できることで、女性も社会へ参加しやすくなっていると思っています。
- ・自宅でできる仕事があれば、子供がいてもやりやすい
- ・実務時間が明確になり、女性も時間外業務に携わることが増え、収入面でも格差が解消されやすくなると思うから。
- ・将来的に業務内容を減らし人材を確保できれば、女性が働きやすい職場を作ることができると思うから
- ・小さいお子さんのいる家庭などは、オンライン化が進んだことで、カンファレンスや学会参加へのハードルが下がったと思う。
- ・小さい子供がいる医師でも参加しやすいと思う
- ・COVID の件では本人は元気(陰性)なのに感染対策のために、出勤出来ないなどもったいなく感じました。感染対策と業務削減を両立させるにはこの分野の進歩が必要だと思います。(感染しても働けるなど)
- ・男性も家庭に戻る時間が早まる

**思わない

- ・ICT 進化で可視化することで逆に悪化する可能性もあると思うから。
- ・勤務時間を削減し、勤務時間外への浸出を無くさないと思う。
- ・結局 web よりその場にいる人が優先されるから
- ・子育て世代が勉強しやすくなるとは思いますが、進むかどうかはやり方次第。
- ・子持ちかつ育児経験がある幹部女性がいないので何も変わらない。
- ・時短勤務者の代わりに誰かが仕事をしないといけないから
- ・進む理由がない
- ・接点を実感しないため。
- ・全部非対面でできるものではないので、男性の働き方は変わらないと思う。そうなると家事・育児は女性の負担なのは変わらない
- ・ICT 化で全て解決するわけではないと思います。
- ・ICT 化と男女共同参画との関係性がわからないから。
- ・ICT 化よりは管理職の意識改革のほうが重要だと思う
- ・あまり関連がないと思うから
- ・どのような ICT 化があるのか知らないから。
- ・まだ実感していないため。
- ・もっと上手く機能するようになるのかわからないから
- ・意識が変わらないと、オンラインなら自宅からも可能といって業務が増える可能性もある
- ・各個人の意識によるところが大きいから。
- ・結局はやるかやらないかはその人たち次第だから
- ・効率化や時間短縮の影響は微々たるものと思う
- ・根本的な価値観は ICT 化では変化しないため
- ・自分の好みに合った ICT 機器はあまりないと思う。かえって面倒になることもあると思う。
- ・職場や家庭の意識や雰囲気の影響が大きいと思われる
- ・男女共同参画に一番必要なのは個人の意識だと思う。
- ・未就学児がいると、児が就寝するまで在宅でのオンライン参加は結局困難だから。

医員・回答しない

**思わない

- ・男女職質の特性や家庭状況などが影響しているため、男女共同参画については個々のとらえ方に拠る部分も大きい印象である。ICT 化によって得られる変化が、男女の家事や育児、また職業特性へ直接影響を与えるという効果は、現実的には段階が乖離していると考えられるから。

専攻医・男性

**思う

- ・オンライン上では性別があまり問われないため
- ・育児中の母親の参加などを促せる
- ・遠隔での仕事ができるようになる
- ・家庭でオンラインで診療に加わるようになれば、乳児がいても一定の役割を持てるから。
- ・業務の改善が期待できるため。

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・業務時間短縮につながる
- ・空間の壁を越えて場所をある程度選ばずに仕事や会議へ参加できると思うから。
- ・個々の活動範囲が広がる
- ・効率が上がるので、時間の余裕ができる。
- ・効率生産性が上がる。
- ・在宅での仕事などしやすくなる
- ・在宅で簡単な確認事項が済まされることもあるため、在宅勤務も進められる。
- ・時間の使い方に変化があるから。
- ・時短につながる
- ・助けのひとつにはなると思う。
- ・女性も働き
- ・導入の手間を超えればよいと思う
- ・無駄な時間をなくせる

**思わない

- ・ICT利用に性差は関係なさそう
- ・そもそも忙しいイメージの科にはあまり女性がいないので
- ・業務効率化しても男女間での変化は乏しそう。
- ・仕事量自体は変わらない
- ・女性側にその気があるのか。男性目線での意見になっているのではないかと思う。自宅での仕事は子供がいると正直無理。24時間体制の保育システムがあると非常に助かる(妻が専業主婦だが、呼び出しの可能性を考えて、子供を置いて外出できない。)

**わからない

- ・ICTについてわかってないから。
- ・ICTを使うか、使われるか。これにすべてがかかっている。ICT化を究極的に進めることができれば、女性の生産性向上、地位向上に繋がる可能性がある。
- ・ICT化との関係性が不明なため
- ・ICT化と性別を繋げて考えることができないから。
- ・まだ実際に恩恵を感じたことがないから
- ・リモートワークの活用に繋がりそうだが、結局家事や育児といった要素は仕事の片手間には難しいと思われる。家庭内の労働者がいざれもリモート対応でも問題なく周囲の理解もある状況まで推進されれば平等な社会参画が可能と思うが、現実的にはどこまで実現されるかわからない。
- ・産休、育休があるから。
- ・時と場合によります。
- ・実際に経験がなくわからないから。
- ・推察しにくい内容だと考えます。
- ・男女のところは価値観もあり難しい
- ・男女の違いに影響するのですか？
- ・男女共同参画への影響は未知数。
- ・男女共同参画社会化にはあまり影響しないと思われる。

専攻医・女性

**思う

- ・もっと在宅ワークのような診療などの関わり方ができれば進んでいくと思う。
- ・育休中などでも勉強会などに参加することが可能になるのではと思います
- ・育児や介護で忙しくても仕事をせざるを得ないから。
- ・遠方という理由で学会参加できなかった女性も、気軽に参加できる
- ・業務等を在宅で参加できる形態に移行すれば、子の面倒や家事を合間に行えるので、労働者の家庭の負担を減らせると思う。
- ・現地参加できずとも、たとえば産休育休中でも、業務や研究に参加できるから。
- ・子育て中の女性たちが学会やカンファレンスなど勉強の機会に参加しやすくなっているから。

46. ICT化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・ 自宅でオンラインを活用しながら家事育児をできると思ったから。
- ・ 自宅でも業務に参加できれば育児しながらでも復帰しやすい
- ・ 場所を選ばない
- ・ 無駄なタスクが減った分、より付加価値のつく仕事を時間内にできるから

**思わない

- ・ ICT化の推進と男女共同参画は関係がないような気がします。
- ・ サポートの問題だと思うから
- ・ 女性が社会復帰しやすくなったと思えるような ICT 化は何一つ進んでいないと思うから。
- ・ 男女が平等であるなら変わらないと思う
- ・ 配偶者に家事をする意思がない

**わからない

- ・ ICT の恩恵が今ひとつ実感できないから。
- ・ ICT 化により業務は楽になっても直接的にはいい影響があるかは不明であるため
- ・ あまり想像がつかない。
- ・ 意識的な問題。効率化したからといって、参画の程度が変わるかは疑問。
- ・ 企業が受け入れようとしなければ変わらないと思います
- ・ 働き方の多様化はできるかもしれないが、それが男女共同参画につながるかはわからない。

専攻医・回答しない

**思わない

- ・ ICT 化の目的に男女共同参画が含まれていないため。副次的な変化を効果と呼ぶことはできないため。

臨床研修医・男性

**思う

- ・ 時間の使い方が変わるから
- ・ 時間の柔軟性が生まれ育児や家事がしやすくなる
- ・ 自由な時間ができるから

**思わない

- ・ ICT ではなく、就業規則や、育休産休制度等の制度上の問題の方が多と思われるから
- ・ ICT において男女共同参画はほとんど関与しないと思われるから。
- ・ ICT 化と男女共同参画の関連性は少ないように思えます。
- ・ 関係がない
- ・ 女性の参画問題は別原因
- ・ 直接的な改善の見込みは乏しいと考えられる。
- ・ 当直、オンコールの制度がある限り齎寄せは家庭を犠牲にする男性へといくため。

**わからない

- ・ あまり関連する事が思い浮かびません。

臨床研修医・女性

**思う

- ・ 移動時間が減ることで家庭にいる時間が増えるから。
- ・ 育児や家事を行う場合もオンラインは移動時間や参加の場所が自由になるため。
- ・ 家事育児、出産をしても仕事復帰しやすい。
- ・ 時間が効率的に使えるから
- ・ 女性も産後職場復帰しやすくなるため

その他の医師・男性

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

**思う

- ・ 移動に費やす時間を減らすことができるため。
- ・ 業務が効率的になることで、男女の差は減らせる。
- ・ 効率的に業務をすすめることができると思う。
- ・ 仕事の合間に家事をできるため
- ・ 時間短縮により、家事と仕事を両立できる
- ・ 自宅で仕事が進めやすいから
- ・ 女性の機会の増加
- ・ 多様性のある働き方を管理できるため
- ・ 無駄を省けるため

**思わない

- ・ ICT 化もそれほど進んでいないから。
- ・ 関係の薄い問題だと考えているため
- ・ 社会システムの問題があるため
- ・ 他の人の負担が増える
- ・ 独身男性が不利な構図は変わらない

**わからない

- ・ ICT 化の推進と、男女共同参画が進むことは、必ずしも関連しない。
- ・ 業務内容自体の見直しや削減が、ICT 化の推進とあわせて重要だと思うから。

その他の医師・女性

**思う

- ・ 育児で参加できなかつたものが、参加できるようになった
- ・ 家から出られない人も勉強の機会は得られる。
- ・ 根本的な解決ではないが、保育・介護で家を離れられない場合でも参加できる点ではこれらを担う女性の参画は促進されると思う。
- ・ 子供がいても色々な仕事に参加しやすくなった。
- ・ 自宅にいても仕事ができるから
- ・ 女性もより参画しやすくなる
- ・ 全ての人の業務が効率化すれば、本当に行いたい診療や家事育児に専念できると思うから。

**思わない

- ・ ICT 化でのライフワークバランスの改善はあっても僅かと考えられるので、現状家事・育児との両立を強いられやすい女性の負担を軽減するほどの効果はないのではないかとと思う。
- ・ 関係ないと思います。

**わからない

- ・ ICT 化との直接的な関連があるかはわからない。
- ・ 科の業務形態により、まちまちかと思えます。
- ・ 関係性が不明
- ・ 実感できていない
- ・ 女性側の負担を男性が分かってくれなければ解決しない問題だから
- ・ 条件によるかと思えます

その他(特任研究員など)・男性

**思わない

- ・ 共同参画を妨害している層の存在
- ・ 業務の効率化と、女性参画の問題点に差異がある
- ・ 本筋では関係のないことだから。

46. ICT 化の影響により、男女共同参画は推進すると思いますか【記述】

- ・ 男女共同参画のために必要なことは、労働内容を変えることではなく、働きながらも私生活が並行できるサポートを充実させることだと思うため。

その他(特任研究員など)・女性

**思わない

- ・ ICT と男女共同参画は、同じ土台で議論できる簡単なものではないから。どんなにネット化が進んでも、男女共同参画が今の日本ではそもそも進んでおらず、特に大きな組織には、男女共同参画の逆の思考の方々もまだまだ非常に多いため、そもそもそこを改革していかないと進まないと思います。
- ・ どのような状況でもやる人はやる、やらない人はやらない
- ・ 関係ないと思う
- ・ 今まで変化を伴った実感がない為。
- ・ 上司次第
- ・ 男尊女卑の考えが根付いているから(先述の回答に同じ)
- ・ 問題の本質が違うから。

**わからない

- ・ どうしても在宅しなければならないときは有用かもしれないが、いつでもオンラインで参加できてしまう環境が逆に負担になる可能性もあると思うから
- ・ 個々人の意識によるものと考えてるため
- ・ 今の業務では ICT 化は必要ないから
- ・ 自分の自由時間が増えたと思う男性が多くなるだけでは
- ・ 男女に関わらず ICT を使いこなせるかどうかなので
- ・ 男女共同参画は、ICT 化の推進ではなく、個々の意識によるものであると考えるから。
- ・ 問題点が重複しているか不明だから